

海外での地名標準化の動向

学術会議オンラインシンポジウム
地名標準化の現状と課題
18Dec2022

報告：渡辺浩平

地名標準化とは？

国連地名専門家グループ(UNGEGN)による定義：

"The establishment of, by an appropriate authority, of a specific set of standards or norms for the rendering of toponyms"

しかるべき当局(国家地名委員会)による、地名表記に関する原則や規範の制定

-> 地名表記の方法を定める手順の制定

特定の地理的事物の名称を統一することではない

例：

- * 広くステークホルダーの意向を反映
- * 異議申し立ての保証
- * 定着した呼称のほか、先住/少数民族による呼称の尊重
- * 商業地名への改変の回避 記念地名のガイドライン
- * 制定された地名の管理(地名集・データベース等)

UNGEGNとは？

UN-ECOSOC(経済社会理事会) UNSD(統計部)の下に
地名専門家グループ

(UN Group of Experts on Geographical Names UNGEGN) が置かれている

各国における地名標準化に関して技術的助言を提供するのが目的

2年に1回総会が開催される。

各国の地理学者、言語学者、地図当局、外務当局が参加する。
(およそ60カ国、200人) オブザーバ団体も。

取組報告、事例報告、課題への勧告、地名取組や原則に関する決議などを行う。

議長Pierre Jaillard (フランス地図当局)、副議長Sungjae Choo(周 成載)
(韓国・慶熙(Kyung Hee)大教授)

UNGEGNとは?(2)

2017までは **地名標準化会議** (UN Conference on Standardisation of Geographical Names UNCISG) とUNGEGNと2本建て。2019より合併。

CSGNは5年毎、GEGNはCSGNと同時開催および間の5年間に2度開催されていた。

CSGNでは参加者は国を代表することになるが、GEGNではDivisionの専門家という扱い (言語や地域による区分。24あり、複数のDivisionに所属する国もある)。日本はAsia East Division (other than China)に属する(韓国、北朝鮮、日本がメンバー)。

それとは別にトピックごとに10のワーキンググループ(WG)がある。
WG会合は適宜開催される。
WGの議論内容や決議案がGEGNで報告される

渡辺はExonyms WGの座長を拝命している。

UNGEGN Divisions

Africa Central
Africa East
Africa South
Africa West
Arabic
Asia East (other than China)
Asia Southeast
Asia Southwest
Baltic
Celtic
China
Dutch and German speaking
East Central and Southeast Europe
Eastern Europe, Northern and Central Asia
East Mediterranean
French speaking
India
Latin America
Norden
Pacific Southwest
Portuguese speaking

Romano-Hellenic
United Kingdom
USA/Canada

UNGEGN Working Groups

Country Names
Toponymic Data Files and Gazetteers
Toponymic Terminology
Publicity and Funding
Romanization Systems
Training Courses in Toponymy
Evaluation and Implementation
Exonyms
Geographical Names as Cultural Heritage
Task Team for Africa

1967年から2017年にかけて5年ごとに過去10回実施
– 211の決議(resolution)

例

- * 国家地名当局の設立の推進に関する事項
- * 地名集(gazetteer)の管理と公開
- * 先住民族・少数民族の地名の尊重
- * 人名にちなんだ地名創設のガイドライン
- * 商業的な地名への改変の不推奨
- * エキゾニム使用の削減
- * DivisionやWorking Groupの創設、次回会議の開催など運営関係

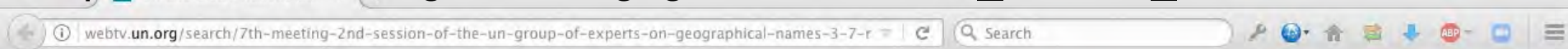
2021 UNGEGN Session (2021年5月3-7日オンライン開催)

国連地名専門家グループの総会

- * オンライン開催のため、発言のできるアクセスは原則各国5つまでに制限。登録400人超(通常は200人程度)。
- * 6つ目のアカウント申請は認められる可能性が高いということで、日本は6つ申請、認められ、外務省2つ(専門室/国連代表部)・地理院2つ・学識2つ(田辺, 渡辺)。
当初代表団入りの予定の岡本, 高木, 山田はオブザーバとして登録。
- * 「ミーティング」は「午前」(日本時間22:00-24:00)と「午後」(同4:00-6:00)
作業部会会合等は0:00-4:00の間に適宜開催(事務局打合せも)。
(エキゾニムWGの会合は5月4日21:00-22:00)
- * 2019年は5日間にわたり午前午後3時間ずつだったため、今回は討論時間の不足が予測され、文書での見解表明も推奨。
- * 議事の司会は副議長2名と各作業部会座長で担当(渡辺はitem13を担当)。

セッションはすべてUNTV上で生中継され、現在も録画が視聴可能

https://unstats.un.org/unsd/ungegn/sessions/2nd_session_2021/#webcast



Welcome to the United Nations

English



UN Web TV

The United Nations Live & On Demand



geographical names



LIVE NOW MEETINGS & EVENTS MEDIA NEWS & FEATURES TOPICS & ISSUES



Available languages: English

7th meeting, 2nd Session of the UN Group of Experts on Geographical Names (3-7 May 2021).

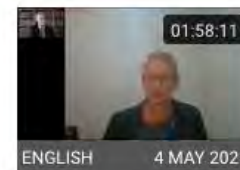
RELATED VIDEOS



2nd meeting, 2nd Session of the UN Group of Experts on Geographical Names (3-7...



5th meeting, 2nd Session of the UN Group of Experts on Geographical Names (3-7...



3rd meeting, 2nd Session of the UN Group of Experts on Geographical Names (3-7...



4th meeting, 2nd Session of the UN Group of Experts on Geographical Names (3-7...



2021UNGEGN議事

各Division, WG, 各国の地名標準化への取組み等に関する報告・検討
詳細な議事は Annotated Agenda と Organisation of Work(タイムテーブル)、主な結果は Draft Recommendations and Decisions が公開されている。

(従来の決議「resolutions」(逐一ECOSOC(経済社会理事会)での承認が必要)はやめて「recommendations」と「decisions」(まとめてECOSOCへ報告)に変更)

UNGEGN Strategic Plan and Programme of Work 2021-2029 を採択

* Side events として 公平でinclusive な社会へ地名がどう貢献できるかのシンポジウム。Black Lives Matterを受けての地名変更の流れなどの背景を受けて、好評

Exonyms に関する議論 (議題13)

- * ジャイアール議長のペーパー、ヨルダン教授のペーパーで定着しているエキゾニムの使用言語社会における文化的価値を強調。
「言語圏におけるその事物との関わりの歴史や親しみを反映」
- * ジ議長とヨ教授の共同提案の決議案を提出
エキゾニムの文化的価値を認め、また土着言語での呼称を尊重するには当該地域の公用語での呼称との併存が必要と指摘 -> 過去のスローガンの 1feature1name に換えて 1feature 1language 1name の原則でよい
- * 「エキゾニムを減らす」決議をしたにもかかわらず会議で英語のエキゾニムが通常使用され問題にされていない矛盾を指摘。
- * 支持も多かったが、「重鎮」オルメリングやヘレラン、公用語地名のみにこだわるストラブプロス氏らの強硬な反対で廃案・継続審議。
- * 総会の成果文書 Decision 12「今後Exonyms WGはCultural Heritage WGと連携して、現行の決議と地名の文化的価値との関係についての議論を深めていくことが望まれる」

2022 Exonyms WG 会合

8月31日-9月3日 於 ルブリアナ(スロベニア) Terminology WG と併催
参加者約40名

テーマ1: "Remaining ambiguities of the endonym / exonym divide"

テーマ2: "Exonyms and Cultural Heritage"

計16の報告があり、各々について検討。

2023UNGEGN総会に向けて、決議草案"On the use and safeguarding of exonyms"の策定と合意

- * 各言語におけるexonym/endonymを問わず、地名の文化的価値を認識
- * 各言語において定着している地名の維持の重要性
- * 先住/少数民族の呼称の併存の推奨を確認
- * 外交等の場におけるexonym使用削減・政治的側面に配慮した使用
- * Exonymの一律の削減を求めた過去の決議を見直す

地名は本来はそれを使用する言語コミュニティで形成されるものであるにもかかわらず、外部(地理的事物が存在するコミュニティ)から僭越な介入が増えていることへの違和感(テュルキエ/ ウクライナ地名)

終わりに UNGEGN:標準化における方向性？

エキゾニムの削減をめぐって

- * 当初は反コロニアリズムから植民地地名の削減でエンドニム主義？
- * マイノリティーや「文化的遺産」の側面の強調。UNGEGNやエキゾニムWGではエキゾニムもそれを使う言語圏の文化の一部としての存在意義。
- * エキゾニム・エンドニム2元論ではないのでは？(特に広域地名)

2021総会・2022exonym WGでの論点：

- * 標準化：各言語の中で1事物1名称？ 1事物1言語1名称？言語の数だけ名称があってよい？
- * エキゾニムは、それが指している地域に住んでいる人々ではなく、その名称が属する言語を使っている人々に決める権利がある。エキゾニムもその言語の文化的遺産。
- * 英語での名称・表記の標準化のための会議？
- * 日本には「しかるべき当局」がない。地名の商業化(命名権売買)
- * 漢字表記(漢字文化圏)の場合、読みの共通性を指向すべきか、書きの共通性を重視するか。